

地すべりが堰き止めてできたチミケップ湖

津別町

日高幌内川地すべりは厚真川の支流日高幌内川の右岸に形成された（図-1）。

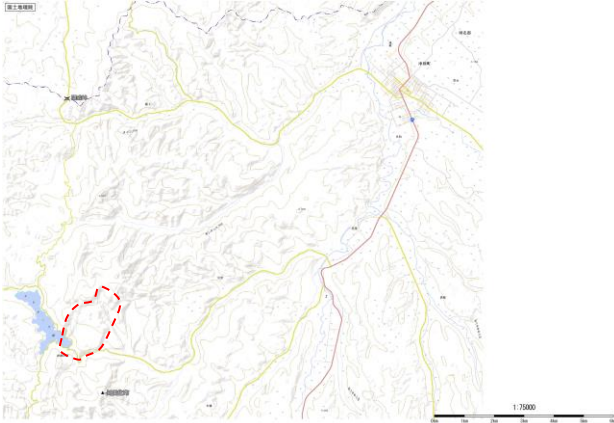


図-1 周辺の地形図とチミケップ湖地すべりの位置（赤破線）。

同様に Google Map 上に撮影位置を示す（図-2）。

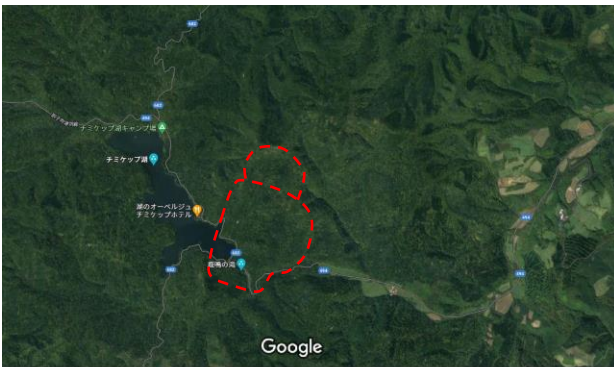


図-2 周辺の GoogleMap. 赤い破線の範囲が地すべり。対岸斜面に乗り上げている。

網走川の西側から訓子府付近までの間には長さ幅とも 1km を超える巨大な地すべり地形が分布している。またこれらの地形傾斜は非常に緩く 10° 以下のものがほとんどである。また、これらの地すべり移動体末端は対岸に乗り上げているものが多数存在する。

こうした特徴は、地震による地すべりに特有であり、過去に（何度か）直下型の地震の強振動により形成された可能性が高い。

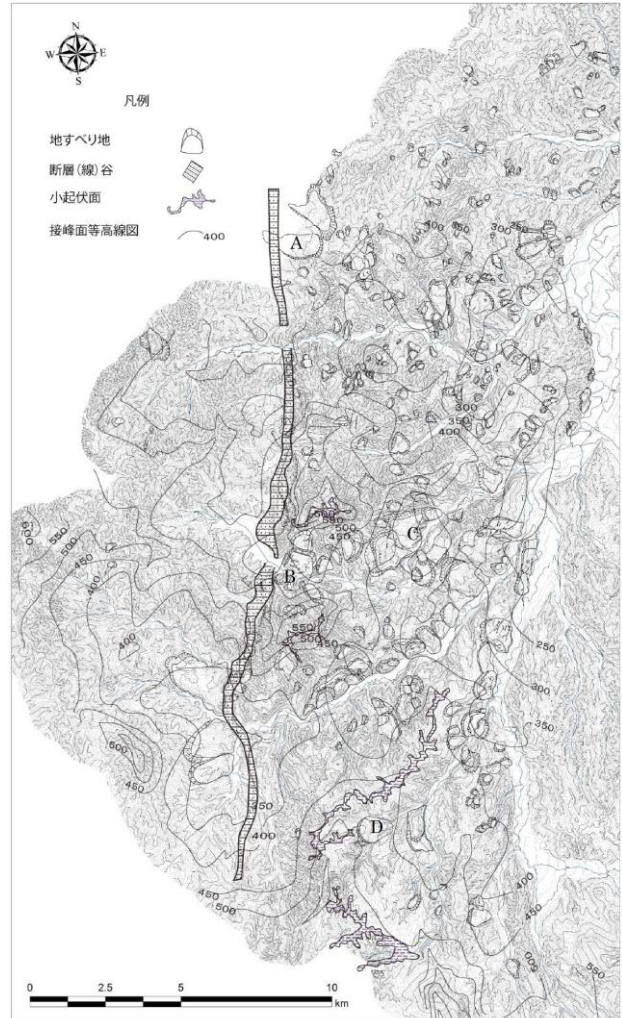


図-3 網走川左岸（西側）に分布する多数の大規模地すべり。

これはまた、現在この地域で活断層や直下型の大きな地震は知られていないものの、過去にこのような地震があったことを示唆している。

チミケップ湖地すべりは、網走川西の支流チミケップ川の左岸を発生源とし、移動体の先端は右岸側に数 100m 乗り上げてチミケップ川を閉塞した。

現在のチミケップ川は移動体の下部を切り裂いて流下し、滝（鹿鳴の滝）が形成されている（図-4）。

図-5 では対岸に乗り上げ破砕した移動体が見られる。

参考文献

雨宮和夫・五十嵐正・宮坂省吾・喜多耕一
(2009)；北見津別地域の地すべり集中分布は地震地すべりか. 平成21年地すべり学会北海道支部研究発表会講演要旨.

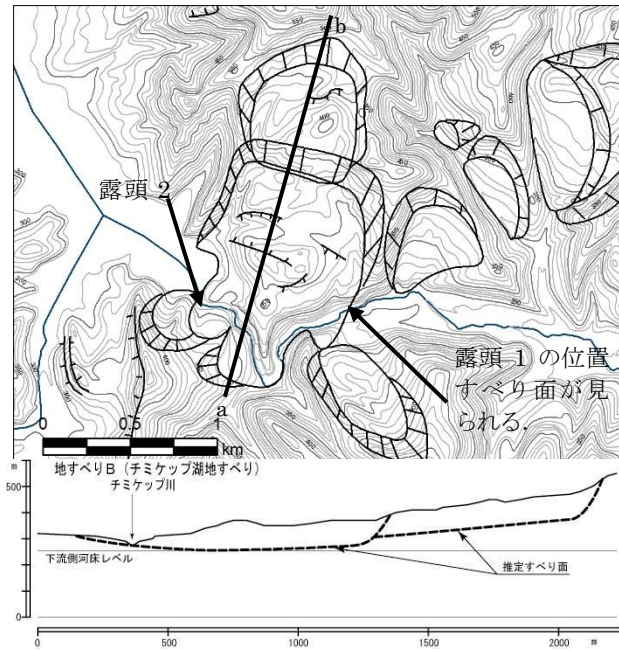


図-4 チメケップ湖地すべりの平面図（上）と縦断面図。上の a, b は下の縦断面図位置。

矢印の露頭 1 では移動体のシルト岩が W 字型に座屈している。露頭 2 ですべり面と見られる粘土層が認められた（雨宮他, 2009）。



図-5 チメケップ湖地すべりがチメケップ川の河床に当たった位置で移動体の岩盤が W 字型に座屈しているのが見られた。図-3 の露頭 1。



図-6 地すべり移動体下部が対岸に乗り上げている。